

みんなの手でよりよい車社会を!!

自動車輸送統計調査にご協力をお願いします。

どんな調査なの？

自家用自動車も含めた日本国内を走っている全ての自動車の人と貨物の輸送量や走行した距離などを把握するために調査を行っています。

なぜ調査に当たったの？

日本国内を走る約7,700万台の自動車を車種別、地域別に区分して、その中から無作為に抽出した約3万台の自動車を対象に調査をお願いしています。

なお、調査は、4ヶ月間で2回お願いすることになりますので、ご協力をお願いいたします。

プライバシーは守られるの？

ご協力いただいた調査票は、国土交通省が責任を持って管理しています。この調査の目的以外の資料として使われることは絶対にありません。

統計調査員ってどんな人？

統計調査員は、地方運輸局長から任命される非常勤の公務員として、調査票の配布・回収などの仕事を行っています。

なお、統計調査員は、統計法で秘密の保護が義務づけられており（守秘義務）、秘密を漏えいした場合などには、罰則が適用されることとなっています。

調査の問い合わせ先は

統計調査員、最寄りの運輸支局か地方運輸局、または、以下までお願いします。

国土交通省 総合政策局 情報管理部 交通調査統計課

TEL 03-5253-8111 (代表)



人が動く、国土が躍動する。

国土交通省

Ministry of Land, Infrastructure and Transport

調査結果は、こんな使われ方をしています。

旅客の全輸送人キロ（約1兆4,184億人キロ）のうち、約67%が乗用車やバスなど、自動車によって輸送されています。

また、貨物の全輸送トンキロ（5,700億トンキロ）の約57%がトラックなど、自動車で輸送されており、旅客・貨物ともに自動車が輸送の過半を担っていることがわかります。

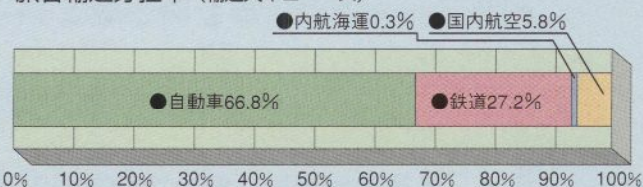
これらの調査結果は、これからの交通政策や交通計画をどのように進めていくかの基礎データとして活用されています。

※輸送人キロとは、輸送した人に輸送距離（キロ）をかけたもの

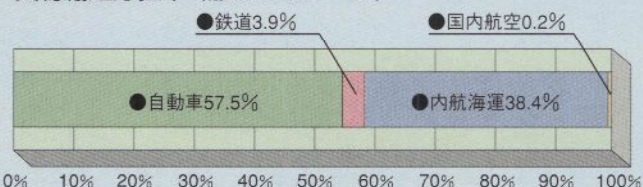
※輸送トンキロとは、輸送した物に輸送距離（キロ）をかけたもの

平成16年度輸送機関別分担率

旅客輸送分担率（輸送人キロベース）



貨物輸送分担率（輸送トンキロベース）

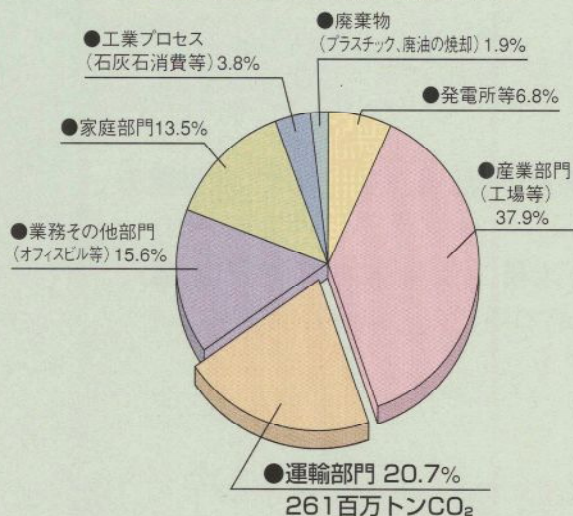


1997年に採択された京都議定書において、日本については、2010年前後に1990年比6%の温室効果ガス排出を削減する目標が定められました。

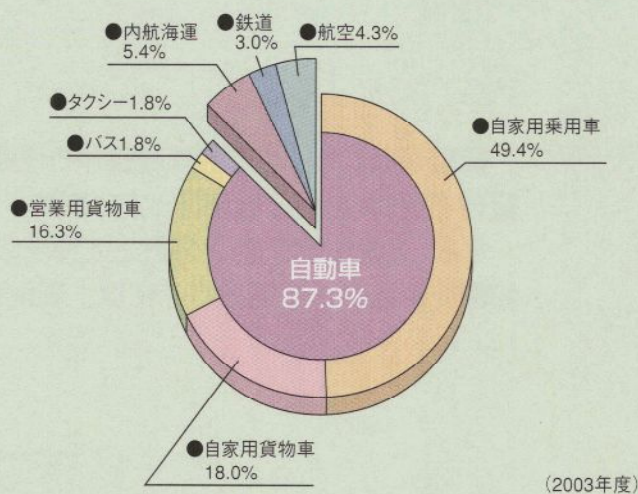
運輸部門の二酸化炭素（CO₂）排出量は、日本全体の排出量の約2割を占めています。その運輸部門のCO₂排出量の約9割は自動車から排出されています。

これらのCO₂排出量は、自動車輸送統計の調査結果から計算され、国際条例にもとづく資料の一部として使用されています。

部門別のCO₂排出割合 (%)



運輸部門の輸送機関別CO₂排出割合 (%)



調査結果は、以下の報告書にまとめて公表しています。

自動車輸送統計月報・年報

人と貨物の輸送量や走行キロなどを車の種類や地域（運輸局）ごとに収録しています。

自動車輸送統計報告書

各都道府県の間で人と貨物の輸送がどれくらいあったかを流動表としてまとめ、収録しています。

自動車輸送統計調査の詳細については、国土交通省のホームページをご覧ください。

<http://toukei.mlit.go.jp/>